

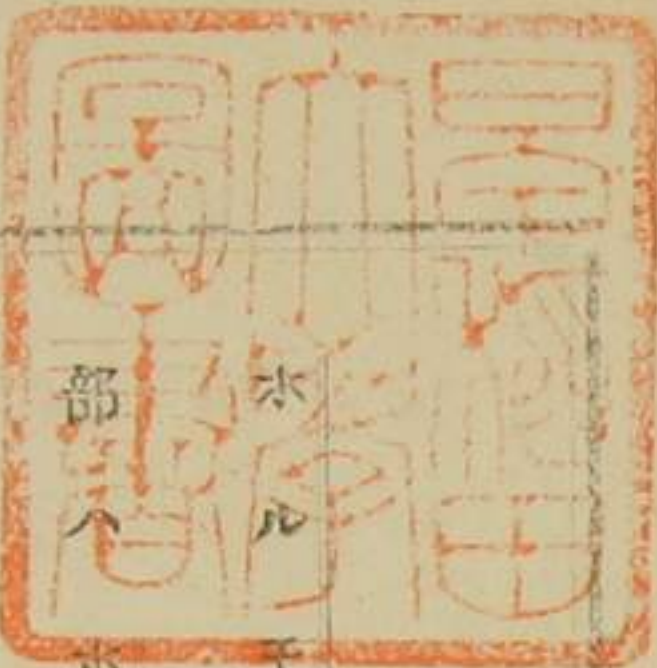
日
報
社

處
蕃
外
論

東京日々新聞第八百拾三號附錄



イ14
A 217



ホルモサ一條

ホルモサ一條ハ其論自カラ二部ニ分ル其第一

部ハ余輩既ニ之ヲ詳論シテ日本ノ處置ヲ相當

ナリト決斷セリ但シ此決斷ハ第二部ニ關セス

獨リ第一部ニ依レルモノト思フ可シ左ニ其概

略ヲ述ヘン北京ニ於テ副島氏ノ應接ハ先ツ日

本ヲ以テ理アリト爲ス可シ余輩思フニ副島氏

ノ支那ヲ去ルヤ心ニ思ヘラク支那人ハ自カラ

處
著
外
論

兵ヲ出シテホルモサ人ヲ罰スルヲ能ハス若ク
ハ之ヲ欲セスシテ日本人兵ヲ出シテ罰ヲ加フ
ルニ支那人少シモ異論無カル可シト又余輩ノ
意見ニハ充分ニ蕃民ヲ懲罰シ後來重子テ慘酷
ノ所行ナカラシムルニハ頗フル大軍ヲ率テ適
宜ノ間ホルモサノ東部ニ據ルハ良策ニシテ勢
ヒ然ラサルヲ得ス之ヲ理ナシト云フ可カラス
此處ニ至ルマテハ他ノ濱海諸國宜シク日本ヲ
助ク可シ云々
茲ニハ支那ニテホルモサノ東部ヲモ其所領ナ

リト唱フル所以ヲ論シ若シ其唱フル所証據無
キ片ハ支那ノホルモサ西部ニ於ル如ク日本亦
其東部ヲ取テ之ニ殖民スルノ理アルヲ決ス
可シ但シ兩國ホルモサニ割據スルニ土人ノ權
ヲ顧ミサルハ固ヨリ常ナリ
獨立諸國相互ノ交際ノ規則タル萬國公法ハ諸
國ヨリ許サレテ之ヲ司トル裁判人若クハ立法
官アルニ非ス故ニ此ノ如キ案件ハ唯公明ノ大
理ニ本テ決ス可シ古昔歐羅巴ニ「カトリキ」教
大イニ行ハレタリシ時ハ人皆法皇ノ決斷ハ万

慮一失無シト爲シ耶蘇教諸國ノ間ニ争ヲ生ス
レハ法皇ヲ以テ裁判人ト爲シ其裁判ニ任シタ
ル例勝テ數フ可カラス殊ニ些小ノ事件若クハ
雙方強弱相敵シテ互ヒニ戰ヲ好マサル時ハ法
皇ノ裁判ヲ肯シタリ今代ニ至テハ重大ノ事
件ヲ屢々仲人裁判ニ任シタリ若シホルモサ一
條争論激烈ニシテ日本支那將ニ兵ヲ交ヘント
スルニ至ラハ兩國ノ同盟諸國其間ニ入テ和ヲ
講スルハ余輩ノ疑ハサル所ナリ此一條ハ極テ
重大ノ事件ナレト甚タ曖昧ニシテ証跡無キヲ

以テ新聞ノ讀者ヲシテ倦ムト無カラシムルニ
ハ外事ヲ引テ論シ假リニ仲人裁判所ヲ建テ兩
國裁判所ニ出テ各々其理非ヲ述フルト想像シ
仲人ノ裁判如何ト先見スルヲ最モ宜シト爲ス
可シ此案件ニ付テ支那人ノ辨論ハ六月二十日
此新聞ニ刊行シタル福建總督李ヨリ日本兵ノ
都督ニ贈リタル書ヲ以テ最モ明瞭ナリトス其
文ニ曰ク
瑯嶠土蕃ノ身体財産村落ハ支那ノ管下ニ在ル
ト昔ヨリ明証アリ

瑯璠第三南部ノ十八村ハ鳳山^{フンシヤン}縣ニ屬シ毎年二千「テール」ノ貢ヲ納ルト載テ臺灣府誌ニ在リ是レ第一証ナリ

臺灣ニハ南北部ノ土蕃ヲ治ル一人ノ官吏アリ此官吏毎年山中ニ行キ土蕃ニ褒賞ヲ與ヘ市場ヲ巡回ス是レ第二証ナリ

シヤイシヤン一名フアンシト云フ城市ニ本朝ノ初ヨリ支那宰相フカンオノ碑及ヒ堂アリ是レ第三証ナリト

又李ヨリ贈リタル他ノ書ニ曰ク

ホルモサ全島ハ支那ノ管下ニ在ルト日久シ土人或ハ野蠻ノ者アリ或ハ開化セル者アリ然レ皆帝土ニ住スルト二百年クワシヒユナンヨシナクウエーシュー等ノ州ハ土人ノ住処ニシテ是等ノ地ハ支那荒漠ノ部ト唱フ土人ハ深山ニ潜居シテ猿猴ニ類シ開明ノ風ニ化セス或ハ政府ノ命令達セサルモノアレ皆支那ノ土地ニ住スルヲ以テ支那管下ノ人民ナリト

初二記シタル書ニモ次ノ書ニモ李ハ琉球ヲモ支那ノ領地ナリト記セリ曰ク

琉球ハ支那屬タル故^{モト}ノチユニシヤン王國ノ一部ナリ此王國ハ茲ニ存シタルヲ數百年常ニ支那ニ順從セリト
李又曰ク余ハ是等ノ屬地人民ト支那人民トノ間ニ少シモ別ヲ立スト又ハッテル氏ノ説ヲ引テ曰ク屬地内ニ在ル者ハ惣テ本國ノ土地ト同等ノ地位ナリト
右ハ才幹アル支那代言人ノ述ヘタル論辨ナリ
余輩ホルモサノ事情ヲ見ルニ此論辨ハ堅確ト云フ可カラス李ノ第一証ニ言ヘル如ク日本兵

ノ陣セル地方ノ十八村ニ二千「テール」ノ税ヲ賦スルヲ臺灣府誌ニ記セルハ實事ナレバ賦税ト收税トハ全ク別事ニシテ支那收税吏敢テ土蕃ノ地ニ入ラス土蕃亦臺灣ニ來ルコト無シ然ラハ如何シテ税ヲ收ムルヤ之ヲ知ルヲ難シ在
廈門日本領事官福島六月十六日ノ書ニ東ホルモサヨリ販リタルヲ記シ土蕃支那ニ貢ヲ納ルヲ無シト述フ曰ク
余土蕃ニ向テ土蕃并ニ其土地ハ支那ニ屬セシヤト問ヒタル時土蕃余輩ハ支那ニ屬セシト無

シト答へ租税ヲ會長ニノミ納テ支那ニ納サル
ヲ以テ之ヲ証セリト
余輩李君ヲ煩ハシテ土蕃毎年二千「テ」ルヲ納
メタル時支那ヨリ與ヘタル請取書カ若クハ是
マテヨリモ更ニ明白ナル證據ヲ示サレン「テ」ヲ
乞フ否ヲサレバ福島ノ言ヲ虚妄ナリトシテ第
一証ノ眞實ナルヲ肯ンスル「テ」能ハス
第二証モ其堅確ナル「テ」大抵第一証ノ如シ支那
領ホルモサト蕃地トノ界ニ兵陵アリ其西邊ノ
林中ニ於テ樟樹ヲ伐ル樵夫常ニ支那兵卒ノ保

護ニ依テ土蕃ノ害ヲ避ク李ノ所謂臺灣官吏ハ
之ニ伴テ山中ニ行ク「テ」アリ「テ」敢テ丘陵ノ東邊
ニ進マサル「テ」必セリ又土蕃ニ褒賞ヲ與フル云
々ハ實ハ樟樹ヲ伐ル樵夫ヲシテ害ヲ免カレシ
メン爲メ土蕃ニ賂ヲ送ルナリ支那人ト土蕃ト
ノ間ニ貢ヲ納ル「テ」アルハ實事ナレ「テ」福建總督
ノ言ハ主客ヲ顛倒セリ其實ハ支那人ヨリ土蕃
ニ貢ヲ納ルナリ第三証ハ論スルニ足ラサル事
ナレハ之ヲ措キ李ノ琉球諸島ヲ支那屬ナリト
唱フル條ニ移ル可シ此一條ハ支那琉球ヲ襲テ

日本ノホルモサヲ攻メタル報復ヲ謀ラント諷
シテ日本ヲ脅カス意ナルト明白ナレハ是レハ
宜シク別書ニ記スヘキ事ニシテ東ホルモサ入
攻ニ關シテ琉球ノ事ヲ論スル時ハ大イニ支那
ニテ東ホルモサヲ所屬ナリト唱フル力ヲ弱ク
ス若シ支那東ホルモサヲ所屬ナリト唱フル所
以琉球ヲ所屬ナリト唱フル所以ニ過キサレハ
外國法律學者一人モ支那ニ左袒セント欲スル
者無キト必セリ
日本ニテ支那ト相争フ地方ヲ其所屬トスル所

以テ未ダ明白ニ陳述セス固ヨリ甚ダ曖昧ナル
ヲ以テ恐ラクハ政府之ヲ公告セサル可シ一千
四百年代日本ノ海賊ホルモサ島ノ此地方ニ據
テ殖民地ヲ開キ頗フル繁榮ニ至リ大坂ノ商人
ゴトウト云フ者島ニ商店ヲ設ケタリ蓋シ日本
ハ之ヲ以テ此地方ヲ所屬ト唱フルナラン一千
六百五十年ノ頃此地方ニ於テ日本海賊ヲ敬重
セシトハカンブフェル氏ノ著書中ニ見ユ是マ
テ支那日本ニテ進フル所ニテハ兩國共ニ此地
方ヲ所屬ナリト唱フル道理充分ニ明白ナラス

双方猶多クノ証據ヲ有ス可シ然レモ之ヲ聞カ
サレハ未タ孰レカ理アルヲ決スルコト能ハス
然レトモ支那ハ西ホルモサヲ領スルヲ以テ東
ホルモサモ接近ノ地タルノ故ニ亦之ヲ所屬ト
唱フルノ權アリトスル人多シ議者曰ク支那ハ
島ノ一部ニ殖民スルニ依リ全部ヲ管轄スル權
アリト英國ノオーストラリア新ジブランドヲ
所屬トスルヲ引テ例トス然レモ是レハ例ト爲
シ難シ其故ハ英人ハオーストラリア新ジブラ
ンドノ周圍ヲ繞リ海岸ヲ測量シ相互ヒニ遠ク

隔リタル諸處ニ殖民地ヲ開キタレモ支那ハ嘗
テ暫クモ東ホルモサニ據リシト無ク殖民地ヲ
開カス商店ヲ設ケス日本ノ入攻以來始テ自カ
ヲ土人ヲ管轄スル權アリト唱フレモ土人ハ之
ヲ肯ンセス古來ノ歴史ヲ看レハ支那ノホルモ
サ全島ヲ所屬ナリト唱フルニ類スル事甚タ多
シ然レモ人皆之ヲ肯ンセサリシ一千四百九十
二年法皇アレキサンドル第二世詔ヲ出シテア
ゾールス島ノ西百「リ」グノ處ニ當リ北極ヨリ
南極ニ線ヲ畫シ其線外ニ於テ發見シタル土地

若クハ後來發見スヘキ土地ヲ盡ク西班牙ニ賜
ヒシ時英佛蘭ノ三國直チニ之ヲ拒ミ西班牙ト
戰テ其權ヲ保セシトアリ近世ニ至リテハ一千
七百九十年英國始テハングーブル島ノフトカ
サオンドニ殖民セシ時西班牙前ニ南方ノ海岸
ヲ發見シ且ツウトレクトノ和睦條約第八章ニ
永ク西班牙ノ領地ト爲スヘキトヲ載セタルニ
依テ北方六十一度ニ至ルマテ亞墨利加ノ西岸
ハ盡ク其所屬ナリト唱ヘタレト英國之ヲ肯ン
セスシテ爭ヲ生シ雙方ニ同等ノ權ヲ與フル約

束ヲ以テ終レリ又同シ一千七百年代亞墨利加
東岸ノ英國殖民ニ與ヘタル免狀ニハ南北ノ境
界ノミヲ定メテ西方ハ太平洋ニ至ルマテ隨意
ニ境界ヲ廣ムルトヲ許ルセリ時ニ佛國ハ英國
ノ殖民地ヲ挾テ其南北ニ殖民地ヲ有セシヲ以
テミシッピ河シントローレンス河及ヒ其中間ノ
諸湖ヲ取り南北ノ殖民地ヲシテ連接セシメン
ト欲シ英人ノ西方太平洋ニ至ルマテ盡ク其屬
地ナリト唱フルヲ肯ンセス一千七百四十八年
歐羅巴ニ於テ英佛兩國和ヲ成セシ時亞墨利加

殖民地ノ争ハ措テ決セス一千七百五十三年英
 佛ノ殖民才ハ井才河ノ濱ニテ終ニ戰ヲ開キシ
 一アリ
 一千八百二十一年魯西亞帝アレキサンドル詔
 ヲ出シテ亞墨利加ノ西北岸ビリーリシ海峡ヨリ
 北緯五十一度ニ至ル地方ト太平洋ノ西岸即チ
 亞西亞ノ方ハ同シクビリーリシ海峡ヨリ北緯四
 十五度五十一分ニ位セルクリル諸島中ノウル
 ヲプト云フ島ニ至ル地方并ニ其中間ノ大洋四
 千「マイル」ヲ海岸接近ノ海ナリトシテ之ヲ魯西

亞ノ所屬ナリト布告セシ時合衆國及ヒ英國直
 チニ之ヲ拒ミ一千八百二十四年ト一千八百二
 十五年トニ魯西亞兩國ト約ヲ結テ其布告ヲ退
 ケタリ此ノ如キ例ハ枚舉スルニ遑アララスト雖
 此ホルモサ一條支那ノ案件ニ類似セル一例ヲ
 舉テ結局ト爲ス可シ即チ英國ト合衆國トオレ
 ゴン部ヲ争ヒタル一條ナリ此争ハ久シク決セ
 ス屢々戰ヲ起サントスルニ至レリ合衆國ニテ
 ハ北緯四十二度ヨリ五十四度ニ至ル土地ヲ盡
 タ其所屬ト唱ヘ此土地ハ合衆國ト相接近セル

ラ以テ合衆國ニ屬ス可シト主張セリ余輩思フ
 ニ支那ニテ東ホルモサヲ其所屬ト唱フヘキ所
 以ハ唯土地相接近セル一事ノミニシテ別ニ他
 ノ理ナシ故ニオレゴン部ノ争ニ付キ合衆國ノ
 議論ヲ左ニ詳記ス可シ曰ク
 ホドソン灣ノ畔ニ二三ノ商店アルヲ以テ英國
 ニ於テロッキイ山ニ至ルマテノ土地ヲ占ムルノ
 權アリト思考シ更ニ南ニ當リ大西洋ニ濱セル
 諸州ニ微々タル殖民地アルヲ以テ南海ニ至ル
 マテノ土地ヲ所屬トスル權アリト唱フルヲ得

シナラハ既ニ南海ニ達セントスル數百萬ノ亞
 墨利加人ノ權ハ之ヲ拒ムヲ能ハス現ニ一處ニ
 殖民シタルヲ以テ隨テ所屬ト爲スベキ接近セ
 ル土地ノ廣狹ヲ決スルハ其殖民地ノ大小ノ口
 ノ多寡及ヒ他方ヨリ來テ占據居住開墾スルコ
 比較シテ其殖民地ノ人ノ速カニ占據居住開
 墾スルノ便利ニ關スルハ誰カ之ヲ否ラストセ
 ンヤト
 英國ハ右ノ議論ヲ肯ンセス一千八百四十六年
 終ニオレゴン部ヲ分チ各々其半ヲ取テ争ヲ決

セリ然レ其其實ハ右ノ議論ニ本テ分取セシナ
リ如何トナレハ合衆國ハ其殖民地ニ接近シタ
ル南部ヲ領シ英國ハホドソン灣社中ノ休歇所
ノ散布セル北部トコロンビヤ河通船ノ權トヲ
得タリ
支那ハ東ホルモサニ於テ政ヲ施セシテ無ク又
其職掌ヲ行ヒシテ無シ故ニ東ホルモサヲ所屬
ト唱フル明白ノ權無シ思フニ支那ハ上ニ引用
シタル合衆國ノ議論ノ如ク土地相接近セル故
ト獨立國其土地財產ヲ專有スル權ハ元來占據

攻取若クハ讓與ニ由テ得ルモノナリト云フ大
法(ホイートン氏万国公法第二編第四條第一節
ヲ看ヨ)トニ依テ東ホルモサヲ所屬トスルヲ得
可シ然レ支那ハ目今東ホルモサヲ所屬ト唱
フルノ權無シ唯日本其出師ノ目的ヲ遂ケタル
ヲ以テ足レリト爲シ將來重予テ暴行ヲ行ハシ
メザルヲ支那ニ担保セシメテ兵ヲ退ケタラ
ハ支那東ホルモサニ占據シテ之ヲ所領ト爲ス
トヲ得可シ斯ク事ヲ處スルニハ支那ヨリ日本
ニ出師ノ費用ヲ償フ可シ若シ日本師ヲ出サド

レバ恐ラクハ支那ニテ東ホルモサヲ得ルヲ無
カラシム
之ニ反シ日本ニテハ支那一千六百八十三年西
ホルモサヲ取リタル以來東ホルモサニ占據セ
ントスル備ヲ爲シタルヲ無キヲ以テオレゴン
部ノ争ニ付キ合衆國ノ議論中殊ニ傍ラニ圖點
ヲ付シタル文ヲ引テ自カラ東ホルモサニ占據
セント主張スルヲ隨意ナリ支那ハ二百年間東
ホルモサニ占據殖民スルヲ怠リタルニ由テ
土地和接近スル故ヲ以テ之ヲ所領トスル權ヲ

失ヒ他方ヨリ來テ占據殖民スル拒ムノ
權ヲ有セス支那二百年間ノ怠慢ハ日本人ヲシ
テ万国ノ風習史乘ノ先例万国ノ公法ニ依テ其
取リタル土地ヲ有セシムルニ足レリ唯疑フ支
那戰ヲ欲セハ日本之ト戰フノ力アリヤ故ニ支
那ヨリ日本ニ向テ支那ノ爲メニ土蕃ヲ罰シタ
ルヲ謝シ出師ノ費用ヲ償ヒ直チニ東部ニ占據
殖民セント企テハ日本ハホルモサヨリ退クヲ
以テ良策トス此約束ハ日本支那共ニ之ヲ容レ
テ面目ヲ汚スヲ無シ但シ之ニ及ハザル約束ヲ

兩國ノ朋友同盟決シテ懲懣ス可カラス
右「シヤパンメー」ル」拔萃

